

スターチス・シヌアータと同じ無加温ハウスで栽培可能な花き新品目の探索

農業試験場 暖地園芸センター
主任研究員 花田 裕美

1. はじめに

和歌山県における平成 29 年度の「スターチス・シヌアータ」（以下「シヌアータ」）栽培面積は約 73ha であり、平成 17 年度の 42ha と比べると 12 年間で 30ha 増加し、出荷本数も 4,200 万本 (H17) から 6,200 万本 (H29) に増加しています。加えて、燃料価格の高騰を受けて無加温栽培面積が増加しています。無加温では気象条件の影響を受けやすく、天候が悪いと出荷が年末や春の彼岸の需要期から開花が外れた時期に集中することもあります。全体に出荷本数が増加していることに加え、需要期以外の時期の出荷などにより価格が不安定になってきています。そこで、暖地園芸センターでは、生産がスターチスに集中することによるリスクを分散するため、スターチスの無加温ハウスと同じ条件で栽培できる花き新規品目の探索を行っています。今回はハイブリッドリモニウムについて紹介します。

2. 栽培方法

ハイブリッドリモニウム「シンジー」は *L. perezii*（宿根性多年草）と「シヌアータ」の交雑品種で、ムラカミシード株式会社から販売されています。「シンジー」には「シンジーシルバー」（以下「シルバー」）、「シンジーディープラベンダー」（以下

「ディープラベンダー」）、「シンジーラベンダー」（以下「ラベンダー」）の 3 品種があります。「シネンシス系ハイブリッドスターチス」「キノルージュ」【福花園種苗】は栽培ハウスはビニルハウスでうね幅 100cm、条間 40cm、株間 20cm の 2 条植えとし、「シンジー」は 2016 年 9 月 7 日に、「キノルージュ」は 2016 年 9 月 13 日に定植しました。冬季は完全無加温栽培としました。施肥は基肥に有機配合 (N:P₂O₅:K₂O = 6:8:7) を 75kg/10a、エコロング 413 140 日タイプ (N:P₂O₅:K₂O=14:11:13) を 32kg/10a を施用し、追肥は行いませんでした。

3. 試験結果

「シンジー」は 2 月から開花が始まり、4 月末までの 1 株当たりの収穫本数は、「シルバー」22.9 本、「ディープラベンダー」17.4 本、「ラベンダー」10.4 本で「シルバー」は収穫本数が多い品種でした。一方、シネンシス系の「キノルージュ」は 9.2 本でした。「キノルージュ」は一度花を収穫した後、新しい花が抽苔してくるので 2 月に収穫した株はその後抽苔し、5 月に収穫できました。



図1 ハイブリッドリモニウム「シンジー」の切り花

表1 ハイブリッドリモニウム 1株当たりの月別収穫本数(本/株)

品種名	11月	12月	1月	2月	3月	4月	計	5月(参考)
シンジーディープラベンダー	0.1	1.2	0.2	2.6	3.1	10.3	17.4	—
シンジーシルバー	0.0	0.2	0.6	3.1	3.9	15.2	22.9	11.5
シンジーラベンダー	0.0	0.1	0.3	0.4	1.4	8.1	10.4	—
キノルージュ	0.0	0.1	0.0	6.3	1.3	1.6	9.2	13.1

定植日：2016年9月7日（シンジー）、9月13日（「キノルージュ」）

収穫本数：切り花長 60cm 以上の株当たり切り花本数

調査日：開花開始日～2017年4月30日（「シンジーシルバー」、「キノルージュ」については5月28日）

切り花品質については、‘ディーブラベンダー’は切り花長が長く、切り花重も重くボリュームも有り、茎径は他の品種と同程度ですが、花茎の翼が大きく、樹勢の強い「シヌアータ」に似た草姿をしています（表 2、図 1）。

品種名	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	茎径 (mm)
シンジーディーブラベンダー	97.7	126.6	10.1
シンジーシルバー	84.9	46.1	11.1
シンジーラベンダー	91.2	91.0	11.1
キノルージュ	100.5	61.6	5.8

調査日：開花開始日～2017年4月30日

全収量の平均値を記載、茎径：軸の太さ、翼は含まない

‘シルバー’は他の2品種より切り花長は短いですが、70cm以上の切り花が90%以上で、花色ががくの付け根が濃いピンクでがくは白と、これまでの「シヌアータ」には無い花色でした（図 2）。



図2 ‘シンジーシルバー’の花房

また、‘シルバー’の葉型は小さくて丸い形で開帳性が強く、母親である「*L. perezii*」の葉と似ていることから宿根性の可能性が考えられました。（図 3）。



図3 ハイブリッドリモニウムの葉型
左：‘シルバー’，右：‘ディーブラベンダー’

‘キノルージュ’はカスミソウのような草姿で、「シヌアータ」とは完全に異なり、宿根スターチスと似ていました（図 4）。



図4 ‘キノルージュ’

4. まとめ

「シンジー」、‘キノルージュ’は無加温ビニルハウスでの栽培が可能でした。‘キノルージュ’と‘シルバー’は、仏花のイメージが強い「シヌアータ」とは花色や草姿が異なるため、違う用途に利用できると考えられます。苗の価格は「シヌアータ」より高いですが、宿根性の可能性が高く、植えたまま2回以上収穫できれば1作あたりの苗代は「シヌアータ」と同程度で植え替えの労力も無くなります。植えたままの場合、開花時期は今回の購入苗と異なる可能性があるため、‘シルバー’と‘キノルージュ’については、植え替えをしない複数年栽培の試験を続けて、次年度以降の収穫時期や収穫本数などの調査を続けます。

5. おわりに

今回はハイブリッドリモニウムについて紹介しました。今後、農業試験場暖地園芸センターでは、新たな花き品目について無加温ハウス条件で栽培試験を行い、現場で利用してもらえる情報の提供に努めてまいります。